

未来の子どもたちへ自然豊かな町を残すために

人と地域と行政をつなぐ 週刊マガジン

まち・ひと つながる



熊本市まちづくりセンター通信 vol.18

熊本市内各校区で、まちづくりに関わり、地域の活性化のために頑張っている人たちを紹介します。

東

は金峰山、西は有明海に囲まれた河内町。その恵みである「河内みかん」や「河内のり」は、今や全国ブランドとして注目を集めています。また、5月下旬から6月上旬にかけては、町を流れる河内川にホタルが舞うなど、豊かな自然が残っているのが特長です。

しかし一時は、生活排水による水質汚染でホタルやアユ、アサリが激減。河川には大量のアカコが発生するなど、劣悪な環境でした。そこで立ち上がったのが「河内町せせらぎの会」の前身、河内校区婦人会です。

「自分一人がしても…」ではなく、自分一人から

排

水溝や港の悪臭がひどく、夏場は窓が開けられないほどでした」と振り返るのは同会会長の中川ケイ子さん。平成4年度から環境学習を始め、コンポスト等を導入したごみ減量の啓発から着手。7年度にはEM（有機微生物群）活性液を使った水質浄化活動をスタートさせ、同会で培養した活性液を町内の全世帯（約1500世帯）に無料配布して台所やトイレなどから流すよう呼び掛けました。すると間もなく悪臭は消え、10年には約40年ぶりに河内川にホ



河内町せせらぎの会 [写真左から]

- 村上澄子さん(71) 中川ケイ子さん(76)
- 中川英子さん(69) 清田幸代さん(68)

地域担当職員からひと言

「河内町せせらぎの会」の皆さんが中心となって、地域住民や子どもたちと一緒に守ってきた自然を、より多くの方に知っていただくため、5月下旬または6月上旬に「ホタルまつり」が開催されます。ステージイベントや特産品販売もありますので、ぜひお越しください！



河内まちづくりセンター
川口和彦



「海辺の生物調べ」には河内小・芳野小の5年生が参加。子どもたちにも環境保護の意識が芽生えます

タルが戻ってきました。現在も2カ月に1度、町内の全世帯にEM活性液を配布。また、河内小・芳野小の児童を対象に、河内川とその河口にすむ魚などを捕って数や大きさを調べる「川の生物調べ」や「海辺の生物調べ」を実施しています。住民一人一人の「地域の環境を守る」という思いが一つになったことで取り戻された河内町の自然。町では、今年も川でホタルが乱舞する時期に合わせて「ホタルまつり」が開催される予定です。



「まち・ひと・つながる」の紙面への感想をはじめ、まちづくりに関するアイデア、相談など左記にお寄せください。

- 熊本市地域政策課 ☎096(328)2031(月～金曜・8:30～17:15)
- chiikiseisaku@city.kumamoto.lg.jp
- 河内まちづくりセンター ☎096(276)1111

お問い合わせ